

神奈川県生活習慣病対策委員会がん・循環器病対策部会  
各分科会 開催状況等について

1 がん分科会の開催状況

(1) 主な議題

- ・平成 28 年度市町村がん検診の実施状況について
- ・がん検診受診促進・精度管理のための主な取組みについて

(2) 各がん分科会の開催概要

ア 胃がん分科会

(ア)開催日：令和元年 12 月 24 日（火）

(イ)委員出席数：6 名

(ウ)委員からの主な意見

- ・今年度の分科会の資料では、X線と内視鏡の合計値を載せているが、検査方法が異なるため、来年度以降はそれぞれ分けて資料に載せてほしい。  
⇒ 分けて算出できるよう検討する。
- ・国の指針では、平成 28 年から X線の対象者について、「当分の間、40 歳以上の者を対象としても差し支えない。」とあるが、40 歳以上の者を対象とすることは指針外なのか。  
⇒ 指針外にはならないが、国が算定する受診率でも、対象者は 50 歳以上としており、原則としては、50 歳以上が対象者であると捉えている。
- ・がん検診チェックリストにおける検診機関別の集計については、全ての検診機関別に把握しなければならないのか。  
⇒ 個別検診も含め、全ての検診機関について把握する必要がある。

イ 子宮がん分科会

(ア)開催日：令和元年 12 月 19 日（木）

(イ)委員出席数：6 名

(ウ)委員からの主な意見

- ・精検受診率は、他の都道府県からも大変注目されている。以前、ある発表の場で、神奈川県の平成 28 年の精検受診率が大きく下がっていることを指摘されたことがある。その大きな要因は、横浜市の精検受診率が極端に下がっていることであった。市町村は、正確な数字を公表できるようにしていただきたい。  
⇒ 市町村に対し、正しく集計するよう働きかけていく。
- ・30 歳代、40 歳代では、検診でのがん発見率がまだまだ低いと考えられるので、この年代にはもっと介入していく必要があることを情報共有していきたい。

## ウ 乳がん分科会

(ア)開催日：令和元年12月19日（木）

(イ)委員出席数：6名

(ウ)委員からの主な意見

- ・ 国の受診率（第2指標）は、上限を69歳までで区切って算出している。これは国際的な比較を行うために上限を設定しているかと思うが、県でも年齢上限を設けない全体の受診率と69歳までの上限を設けた受診率の2つを併記することはできないか。  
⇒ 受診率（第2指標）としては年齢を区切らないで算出したものを使用するが、比較を行う材料として、上限を設けた受診率を算出することについては、検討する。
- ・ 検診機関別の実績を検診機関に対して県からフィードバックした方が良いのではないか。検診機関に伝える際に、厚労省の許容値等をベースにして伝えるのではなく、全国平均や神奈川県全体の平均、あるいは個別検診での平均を伝えて、もう少し改善してもらえないかと働きかけるのが良いのではないか。  
⇒ 今までこの資料は、分科会で議論するために作成し、検診機関には個別にフィードバックは行ってこなかった。行政の立場として、この結果だから良い悪いとは言えないので、まずはデータを検診機関に示して気付きを与えることが重要と考える。他の医療機関や国の指標と比較しても、例えば要精検率が高すぎる医療機関も存在しているので、検診機関へのフィードバックについて、検討する。

## エ 肺がん分科会

(ア)開催日：令和元年12月16日（月）

(イ)委員出席数：5名

(ウ)委員からの主な意見

- ・ 藤沢市では高齢化とともに検診対象者数は増加しているが、受診者は減少している。検診対象者のうち、職域で受診している人もいるため、市全体での受診者の状況把握が難しい。  
⇒ 市町村の受診率把握に加え、職域での受診率を把握することが重要と考える。職域の受診率把握は現状では難しいが、国が方策を検討している。
- ・ 集団検診機関のデータで、要精検率のばらつきが見られる。  
⇒ まずは、検診機関に他検診機関との違いを知ってもらうことが重要と考える。今後検診機関へのフィードバックについて、検討する。
- ・ 「CT検診」と「検診結果集計方法」について、検討が必要ではないか。  
⇒ 次回の分科会で検討する。

## オ 大腸がん分科会

(ア)開催日：令和元年12月20日（金）

(イ)委員出席数：3名

(ウ)委員からの主な意見

- ・ 厚木市、藤沢市の精検受診率が低い。  
⇒ 一次検診実施機関が検診結果の説明時に精密検査の受診勧奨を行うのみで、市が直接に受診勧奨を行っていないことが要因の一つとして考えられる。
  
- ・ 神奈川県における市町村チェックリストの遵守率が全国平均に比べ低い。  
⇒ 検診の精度管理にどれだけコスト、マンパワーを割けるかによって遵守率に差が生じるものとする。一つでも多くの項目をクリアできるよう、市町村に働きかけていく。
  
- ・ 今年度のがん検診医師・技師等研修会の参加者数が少ない。  
⇒ がん検診を担当する医師・技師が聞いてみたいと思うようなテーマでも検討していく。来年度は大腸がんを取り上げることも検討中である。

## 2 循環器疾患等分科会の開催状況

(1)開催日時：令和2年1月8日（水）18時～19時

(2)場所：神奈川県庁新庁舎1階会議室

(3)委員出席数：6名

(4)主な議題

- ・ 本県の循環器疾患等の現状について
- ・ 特定健康診査・特定保健指導の実施状況について

(5)結果

- ・ 循環器疾患は継続的にデータをみる必要があるが、死亡原因の疾患が変わってきているため、死亡の統計の取り方を変えていく必要があるとの意見があった。
- ・ 特定健診及び特定保健指導の実施率は協会けんぽと国保が低い。専門職の数が足りないことも一因ではあるが、今後も各保険者が実施率の向上にむけて努力していく必要がある。
- ・ 医療機関で特定健診受診後、明らかに特定保健指導が必要な方に利用券などの問題でタイムリーに特定保健指導が実施できないことが課題である。市の管理上によるものなのか、国保連の請求システムにあるのか、状況を確認し、改善できるところについては、取り組んでいくこととなった。